

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
“愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年11月1日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3873800373
事業所名	グループホーム宇和ひまわり
(ユニット名)	A棟
記入者(管理者)	
氏名	土居 ひとみ
自己評価作成日	平成29年10月1日

<p>【事業所理念】 笑顔ある生活</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・地区消防団との協力体制づくりに取り組む・・・消防団長に施設の構造確認をしてもらった。何かあったら協力をおねがいがしている。来年4月の避難訓練に参加してもらう予定である。 利用者の思いや意向を深く考えての対応が不足している。利用者に対して、理念に即した対応が出来るよう努力していく必要がある。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 「笑顔ある生活」を理念に掲げ、利用者のできることや得意なことを活かして、日々笑顔で穏やかに過ごせるよう支援に努めている。利用者の重度化がすすんでいるが、なるべく外出の機会を増やしたいと考え、年間計画を立て季節の花見や外出に出かけている。また、近くにある保育園の園児に定期的に遊戯を披露してもらう等、近隣とのふれあいも楽しんでいる。職員は、家族と様々な機会を通して信頼関係を築けるよう努めており、担当者が送る手紙は心温まる内容である。</p>
---------------------------	--	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	どのように暮らしたいかなど、本人に聞いたり情報を記録し職員に伝えてあっている	○	/	○	職員は、日常の何気ない会話の中から利用者の思いや希望を聞き取っている。重度化に伴い意思表示が困難な利用者が増加しているが、職員は利用者が好むものや、喜ぶこと等を推測して声かけを行い、反応を見ながら思いを汲み取るよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	意思疎通ができない方がどう考えているか理解できていない	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人にかかわりのある方に話を聞いている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	暮らしの状況用紙に個別に記録し全員が把握できるようにしている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	本人の思いを大切にしつつも、職員の思いや決めつけで係わっている事がある	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時に本人・家族等から情報を聞き取り記録している	/	/	○	入居時に本人や家族から情報を収集すると共に、病院や利用していた介護事業所からも情報を得ている。「暮らしの情報用紙」には、利用者の長年の習慣や好みを丁寧に聴取し記録されており、入居後に変化があれば追記し、職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	定期的にあセスメントの行い、現状の把握に努めている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	一人一人の介護記録に状態の変化を記録し、状態を把握出来るようにしている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	会議や申し送りで話し合っている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録に暮らしの様子を記録している。バイタル・排泄・食事量・水分量なども記録している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の行動・話などをふまえ、職員間で意見交換をし、必要としている支援を考えている	/	/	○	認定調査表を参照し、包括的自立支援プログラムを活用しながらアセスメントを行っている。初回は計画作成担当者が介護計画を作成し、それ以降は利用者担当職員が中心となって、職員会で話し合いながら課題の分析をしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	申し送りや会議で話し合っている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	アセスメントシートを活用している	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人からの思いや要望を聞きとって、ケアプランを作成している	/	/	/	職員は利用者が望む暮らしを実現させるため、利用者ができることに着目し、趣味を生かしたサービス内容を盛り込むよう考慮している。家族にはサービス担当者会議に参加してもらえるよう案内しており、家族の来訪に合わせて話し合いを行い意向を反映するよう努めている。介護計画は、家族面会時に職員のケアへの思いを伝えながら説明し、同意を得ている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の意向やどう暮らしたいかを聞き、その人らしい生活ができるようケアプランの作成をしている	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	寝たきりにならず、みんなと過ごせるようリビングに誘導している	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容となっている。	△	地域の行事に参加しているが、一部の人になっている	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアプランを一人一人の介護記録にはさんで、いつでも確認出来るようにしている	/	/	○	介護計画は個人別ファイルに挟み込み、常に計画を意識しながら支援できるよう工夫している。サービス実施状況や観察事項を丁寧に記録し、モニタリングにより職員間で確認し、ケアに活かしている。利用者一人ひとりに対する職員の気づきや工夫等についても、記録することが望まれる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランにそって記録し、申し送りに気づきを話し合っている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に、言語・表情・行動等細かく記入している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	職員の気づきは、記録か口頭で伝えるが、あまりできていない	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	見直しは毎月1回行っている	/	/	○	介護計画は、初回は1か月間実施した後に、以降は3か月後、6か月後に見直し、現状に即した内容になるよう検討している。また状態の変化があった場合は、その都度見直しており、変化がない場合でも毎月ミーティングで利用者の状態を確認している。入院など利用者の暮らしに変化が生じた時は、利用者や家族等を交え見直しを行い、介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回会議でモニタリングシート記入し報告・確認を行っている	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院されたり、心身状態が変化したときは、随時、本人・家族と見直しを行っている	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月1回会議を行い、意見交換をしている	/	/	○	毎月の職員会は、最も多くの職員が参加できる日に開催されており、ケースカンファレンスを行って検討している。日々の申し送り時には、気づきや提案を出して話し合い、情報を共有すると共に統一したケアができるよう努めている。検討した内容は日誌に記載して申し送り、参加できなかった職員には、会議録を回覧し伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	それぞれの担当者が、ケアプランを作成し意見交換している	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	全員参加できるよう希望日を選んで日程を決めている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議の内容を記録し、後で確認できるようにしている。確認後、サインをもらっている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	口頭で伝えたり、介護日誌の備考欄に記入し、確認者はサインをするようにしている	/	/	○	利用者の状態の変化や治療内容の変更等は、日誌の所定欄に記載して申し送り、確認後は各自サインすることで確実な伝達ができるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	職員の交代時に必ず申し送りをし、利用者の状態を伝えている	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	全員ではないが、出来るだけ本人がしたいと言う事を叶えられるようにしている	/	/	/	職員は、問いかけに対して反応が返ってこない利用者が増えていることを残念に思っているが、理念に掲げられているようにできる限り笑顔で過ごしてほしいと考え、思いの実現に努めている。月2回お楽しみメニューの日を設け、利用者が食べたい料理を出し、飲み物も好きなものを選んでもらうよう働きかけている。また、利用者には絵画やパズル、折り鶴など、得意なことに楽しんで取り組んでもらうよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	月2回お楽しみメニューを作り利用者の方の意見を取り入れている	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	なるべく自由に本人の意志にそって、自由に過ごせるよう見守っている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者の人によって生活のリズムをあわせている	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	本人をの出来る事、得意な事をしえもらい、楽しみをもてるようにしている	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や全身の反応をみながら、思いをくみ取るよう務めていた	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	○	職員によって対応に問題がある場合、個別で注意し会議で話し合うようにしている	○	○	○	職員は親しみの中にも節度を保った関わりができるよう努めており、呼称については姓や名前に「さん」を付けて呼んでいる。排泄や入浴介助、トイレ誘導の際は目立たないような声かけに努めているが、反省点もあるのでさりげない声かけ等を徹底して欲しい。居室に入居する時は、声かけし必ず利用者の了解を得てからにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	言葉かけや態度には注意しているが、できていない時がある	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	なるべく小さな声で声掛けしている。耳の遠い利用者の方には耳元で話している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室する時は、先に声掛けて本人の了解を得ている	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報については、いつもスタッフ同士気をつけている。電話などの問い合わせにも注意している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除など毎日できる事を職員と一緒にしてもらっている	/	/	/	職員は、利用者が共に過ごし支え合う関係を大切にしている。利用者同士の関係は良好であるが、もし利用者同士の意見が合わない場合でも、トラブル等に発展しないよう職員がいつも注意を払い見守っている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	優しい声掛けや、感謝の気持ちをもって生活している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	職員が注意しながら、良い関係が保てるようにしている	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	今のところトラブルはないが、不穏な空気になれば、職員が声掛けを行い、トラブルになる前に防いでいる	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	聞き取りシートを上手に利用できていない	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	全員の利用者の把握ができていない	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	本人・家族からの情報をシートに記録しているが、周りの知人等も高齢になり疎遠になっている人が多い	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	来訪した人たちが、居室やリビングでゆっくり過ごしてもらえるよう声掛けや飲み物を出している	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	ベランダに出たり散歩に出かけたりするが、毎日難しい	◎	◎	○	事業所は田園の中にあり、利用者は隣接している菜園へ散歩に出かけ野菜の成長を見ることを楽しみにしている。車いす等利用者の状態にかかわらず、リビングの窓からベランダに出て日光浴をするなど、気分転換にも努めている。また毎月1回程度、季節の花見や外食などの外出計画を立てており、遠出の際は福祉車両を使用し全員で外出するなど支援に努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	今のところ施設の職員で外出できているので利用していない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	△	重度の人もベランダに出てもらい、気持ちよく過ごしてもらえるようにしている	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	個別に対応できていない	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修に参加し、会議で報告し、不安や混乱の予防、支援の工夫をしている	/	/	/	DVD体操や指体操、手作業、合唱等、利用者のできることやできそうなことを日常生活で取り組んでおり、職員は見守りながら、時には手助けを行うこともある。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	利用者個々の身体状態を把握し、一連の動作が自分でできるよう声掛けし、必要なところのみ介助している	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者一人一人できる事できない事を知り必要な手助けや声掛けをしている。その日により体調も違うため、声掛けや関わり方を考えケアを行う	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者それぞれ、その人にとって楽しみごとや役割を考えている	/	/	/	可能な範囲で家事を分担して役割を発揮できる機会を設けている。利用者がどのような状態になっても風船バレー、ボール投げや手遊びなど、何らかのことに楽しんで取り組んでもらうよう努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者個々でして頂くこと、全員ができること、役割を考えている	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	保育園児との交流や夏祭りに参加し楽しんでもらえるようにしている	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人が持っている衣類などのバランスを考えている	/	/	/	利用者は家族が持参した衣類などを着用し、食べこぼしや着衣の乱れがあっても、職員がさりげなくきれいに整えている。重度の利用者も毎日着替えをしたり、2か月に1回訪問美容で好みの髪型にするなど、利用者の思いを尊重した支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	入所時は、本人の着慣れた服を用意してもらっている。入所時は、本人と買い物に行き購入する	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	把握している情報をもとに本人と相談し決定している	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に応じた服装を楽しめるよう支援している	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	着衣の乱れ、汚れなどあったら早めに更衣し清潔を保っている	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問美容師に来てもらっている。利用者の人に確認しながら長さなど調整してもらっている	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	洋服など清潔な物を着てもらっている	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者と共に食事を一緒に楽しみ、片づけの出来る人はしてもらっている	/	/	/	管理者が献立を作成し、毎食各ユニットで調理している。買い物や後片付けなど、利用者が楽しめるような支援ができていないので取組みを期待したい。月2回利用者の好みを取り入れたお楽しみメニューの日を設けており、誕生日にも利用者が希望する料理を特別につくり、手作りのおやつで祝っている。菜園で採れた季節の野菜を使うこともある等、食事が楽しめるようにしている。食器は自分の家で使い慣れたものを使用している。利用者一人ひとりの状態に合わせて食事形態を変えたり、苦手な食品を別のものに変えるなど配慮し、食事の時間が待ち遠しく楽しんでもらえるよう支援している。職員も一緒に食卓を囲み、利用者にゆっくりと声をかけ、姿勢や食器の位置を変える等の工夫をしながら、利用者が自分で食べることができるよう支援している。定期的に栄養士からアドバイス等をもらい、利用者の栄養バランスを考えた献立メニューの作成に努めて欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	買い物に行く時間がとれていない。利用者の高齢化に伴いできていない	/	/	△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	利用者の高齢化に伴いできていない	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に家族や本人に聞いた内容を把握し、職員間で共有している	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	アレルギーについては注意している。季節の食材を取り入れている	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者の機能にあわせ、柔らかく調理したり、トロミをつけたりしている	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	自分の家で使い慣れた物を使用してもらっている	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者と一緒に食事をし見守りしている。介助の必要な人は、隣に座って声掛け介助している	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	料理の匂いを感じることができる	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	水分量、食事を個別に記録している	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	毎食時、おやつ時には、水分の摂取量をチェックしている。水分量が少ない時は、こまめに飲用してもらっている	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	知り合いの栄養士に献立をみてもらっている	/	/	△			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板は、魚、肉、野菜に分けている。毎日、ハイターで消毒している	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	△	口腔ケアについて話し合いをしている	/	/	/	職員は口腔ケアの重要性を認識しており、毎食後口腔ケアを実施している。異常を発見した場合には、協力医に依頼して訪問による歯科治療を受けることができるよう支援している。全員の口腔内チェックはできていないため、今後、歯科医師や歯科衛生士による予防的ケアの取組みについても検討することを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの時に確認している	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	指導は受けていない。義歯の調整はしてもらっている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	できる事はしてもらっているが、磨き残しは職員が行っている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	食後、歯磨きの声掛けを行い、本人ができるよう見守り介助を行っている	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常がみられた時には、家族に連絡し、状態説明し歯科受診をしてもらっている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	会議で話し合っている	/	/	/	日中と夜間共にトイレで排泄が行えるよう支援しており、リハビリパンツや尿取りパットを使用している利用者が多く、現在おむつを使用している利用者はいない。転倒の危険がある利用者には、夜間は履物に鈴をつけ、職員が動きを察知してすぐに対応できるよう工夫している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食事の内容、水分量の把握をし理解している	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個別の排泄チェック表をつけ、日常の変化や状態について把握している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄のパターンを把握し、誘導しトイレでの排泄ができるよう促している	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	個々にあったトイレの声掛け誘導を行っている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	一人一人の排泄パターンを把握し、本人の前でさりげなく声掛けを行っている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人や家族との話し合い、確認しながらおむつの種類について決めている	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人に合わせて使い分けている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食べ物や飲み物を工夫している	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	利用者の体調に合わせて入浴を行っている。拒否のある人は、機嫌のよい時に誘導するようにしている	◎	/	○	一般家庭浴槽に2、3日に1回入浴ができるよう支援しており、季節が感じられるようゆず湯をすることもある。入浴が苦手な利用者もいるが、無理強いないことなく入浴できるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	一人づつ気持ち良く入浴してもらえるよう心がけている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の出来るところはしてもらえようにする	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴拒否のある人は、毎日声掛けを行い、今までの習慣など考え、時間帯など考え工夫している	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には、血圧と体温を計り状態の把握をし、入浴後は水分補給を行っている	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	本人の状態を把握し記録している	/	/	/	不眠時には、利用者が眠くなるまで話を聞き寄り添うなど、安易に睡眠導入剤に頼らないよう支援している。体調維持等のためやむを得ないと医師が判断した場合のみ、薬剤を処方するようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	テレビを見てもらったり話をしたりして過ごしてもらっている。眠くなるまで職員と過ごす	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中はなるべく活動していただいている。それでも、眠れない場合は、医師に相談している	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の希望や状態に合わせて休息してもらっている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	電話、手紙のやりとり出来る方がほとんどいないので、毎月職員が手紙で状況報告している	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	意思疎通困難な方が多い為出来ない	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	いつも使えるように配慮している	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人にはきちんと伝え見せているが、理解できていない	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族に理解、協力してもらっている。家族の方からも電話してもらっている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	×	職員は理解できているが、すべてホームで管理している	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	利用者が高齢になって、外出が難しくなっている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	行きつけはないが、どこも親切に対応してもらっている	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	ホームが管理していて支払いなど職員が対応している	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族と相談してホームで預かっている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	管理方法、預かり金の使用目的を話して、預かり帳のコピー、レシートを家族に郵送している。面会時に確認してもらい、サインしてもらっている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	来訪時、家族と共に食事をしてもらう事もある	◎	/	○	家族が高齢であったり、遠方に住んでいたりして病院に付き添うことができない場合は、職員が付き添って受診しており、福祉車両で送迎する支援も行っている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	花壇にはいつも花があり、玄関なども出入りしやすい雰囲気になっている	◎	◎	◎	玄関を入ると正面に理念が掲げられており、観賞用植物が置かれたエントランスの両側が各ユニットの入口になっている。入口には長椅子を置き、履物の着脱がしやすいように工夫している。壁には利用者の作品が飾られ清潔な印象である。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	一般家庭と同じようにし、くつろげるような環境作りをしている	○	◎	○	オープンキッチンのあるリビングは2面が掃き出し窓のため明るく、調理の音やにおいを感じられる空間になっている。畳コーナーや椅子席、ソファ席が設けられ、利用者は思い思いにくつろいでいる。大きな窓からは道行く人を眺めることができ、所々に生花を飾ることで季節を感じられるよう配慮している。不快を感じさせないよう掃除をしているが、不十分な点もあるので、清潔が感じられるような清掃等に努めて欲しい。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	△	音・光・臭いに気をつけて掃除をしているが、細かいところなど行き届かない事がある	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を活けたり、台所とホールがオープンになっているので、食事の匂いや音が聞こえたりする。玄関や食卓には花を利用者と活けている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ホールにはソファを置きみんなで過ごせるようにしている	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	トイレ、浴室は共有空間から直接見えないよう工夫している	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅を使っている物など馴染みの物を持ってきてもらっている	○	/	○	居室には家族写真や誕生祝いの色紙、家族手作りのぬいぐるみが飾られ、個性的な部屋になっている。また、1日1部屋を大掃除の日と定めて掃除し、清潔に過ごせるよう努めている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	玄関にイスを置き、靴の着脱ができやすいようにしている。廊下、トイレに手すりをつけている	/	/	○	居室入口の飾り付けや、「トイレ」と大きく表示するなど、利用者が分かりやすいよう配慮している。共用スペースに余分な物はなく、車いすでの移動が容易にできるよう環境を整えている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室はすべて引き戸にし、トイレの入り口にはわかるように大きな字で書いている	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌、アルバムなど、取りやすい場所に置いている	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中はカギをかけないで自由に入出入り出来るようにしている。外に出たい利用者がある場合は、職員が一緒について行くようにしている	◎	◎	◎	職員は施錠することの弊害について学んで理解しており、日中は玄関及びユニット入口は施錠されておらず、自由に入出入りすることができる。職員は声をかけ合って見守り、安全に配慮している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	日中鍵をかけていない事は、家族の理解を得ている	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関には、戸が開くと音がるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居前に、事前調査表を確認し共有している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタルチェック、食事摂取、排泄パターン、体重の状態、体調変化を個別に記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	かかりつけの病院、医師に相談出来るようにしている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時に家族の希望を聞き受診出来るようにしている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	かかりつけの病院が遠方の場合、話し合っている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院はホームの職員が行っているが、家族が行かれる利用者もあり、受診結果で変更などあれば報告している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際は介護記録をみて医師や看護師に情報提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中は洗濯物を取りに行ったり、必要な物を持って行ったりし、様子を伺い、医師や看護師に経過など聞いている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	毎月受診しているので、関係が保たれている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	気づいたことや心配な事等、来所時や電話などで報告、相談している。毎月1回会議を行い、現在の状態や気づいた事等話し合っている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	×	日中は対応可能になっている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	△	変化、異変がみられた場合、対応の相談をしている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	薬の詳細についての理解は十分とはいえない				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	手渡し、服薬の確認をしている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	心身の変化、変調がみられたら医師に相談する				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	処方が変わったら記録し、申し送りなどで伝え確認している。変化や気になる事があれば、医師に相談している。				

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態変化があれば、家族、本人の意向をきき、支援内容を話し合っている	/	/	/	入居時に本人や家族に事業所として対応できることを説明し、理解を得ている。現在看取り支援は行っていないが、重度化した場合は家族や医師、職員が話し合い、病院の医療ソーシャルワーカーや関係機関と密接に連携を取りながら、適正な治療やケアが受けられるよう支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	本人、家族、医療関係者との話し合いをして方針を共有している	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	×	終末期の対応は出来ていない	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約時に事業所の方針について、説明し理解を得るようにしている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	×	終末期の支援は行っていない	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の思いを聞くようにしている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	順番に研修参加し、会議で報告するようにしている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	マニュアルを作成しているが、対応力を身につける訓練は行っていない	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	テレビなどの情報で職員同士話し合っている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	市からの情報を得て、予防対策をしている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関にマスク、消毒液を常備している。こまめに手洗いをしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	来訪時や手紙で本人の様子を伝え、本人と家族と一緒に考えている	/	/	/	様々な機会を設けて家族と意思疎通を図り、信頼関係を構築できるよう努めている。年2回開催する家族会には多くの家族が参加しており、率直な意見を聞くことで改善に結び付けている。面会時には家族が相談しやすいよう気軽に声をかけ、利用者の様子を伝えると共に、家族の要望も聞くようにしているほか、職員の異動等についても伝えるようにしている。また毎月の事業所便りを送付する際は、担当職員が利用者の日常を丁寧に綴った手書きの手紙を添えて送っている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	家族の来訪時にリビングや居室で本人とゆっくりしてもらうよう一緒におやつを食べてもらうようにしている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	年2回家族会をして交流を深めている	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月、本人の様子など手紙を書いている。ホームだよりを出して。電話をかけるときもある	○	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	言いやすい雰囲気作りを心がけている	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会に来られた時に本人と家族との間に職員が入り、和やかに話ができるようにしている	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	来訪時やホームだよりで伝えている	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	年2回家族会を行い、家族間の交流が出来ているが、欠席者があり、参加する家族は限られている	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	起こり得るリスクについて、家族に説明し対応策を話し合っている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には、声をかけ状態の説明をし意見が言いやすいようにしている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時に説明し理解、納得してもらうようにしている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去については、家族と話し合い同意を得るようにしている	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	利用料金の変更があれば、文書で連絡し同意を得ている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設時、事業所の説明会を行った	/	○	/	近くにある保育園の園児が、散歩の途中で事業所に立ち寄ったことがきっかけで始まった園児との交流は、2か月に1回定期的に行われている。地域の秋祭りには神輿や五鹿踊り、亥の子が訪れ、楽しませてもらっている。毎年末の餅つきでは近所に餅を配るなど、地域との交流に努めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地方祭、地域事業に参加している	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	散歩していると、地域の人が声をかけてもらう	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	今後、カフェなどをして、近所の人と交流を持ちたい	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近所の人と挨拶をしている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	町内の方がボランティアに来てもらっている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	希望に沿った外出をしているが、一部の人になっている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の保育園児が定期的に訪問してもらっている。駐在所の人とも年1回交流をしている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地域支援包括支援センターの人の参加を増えた	×	/	○	運営推進会議は利用者や家族のほか、市議会議員や駐在所警察官、司法書士等の参加があり、講話をしてもらったり情報交換を行うなど、協力関係を築いている。会議では外部評価の取組み状況等についても報告し、意見等ももらっている。意見交換の中で、高齢化する地域とのつながりをより深めるために認知症カフェを開催してはどうかという提案があり、実現に向けて検討している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	自己評価、外部評価など報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	参加者全員に意見を聞いている。意見、提案を今後の運営に生かすようにしている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	出席しやすい日を設定している	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関の所に置き、誰でも見れるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	会議の時に、理念に添ったケアが出来るよう全員に認識出来るようにしている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	玄関先の見える所に掲示しているが、伝えていない	×	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	個々にあった研修に参加出来るようにしている				新入職員の指導は担当職員が相談にのりながら行い、資格取得も奨励しており、支援体制を整えている。さらに代表者は職員全員の相談に乗り、職員がストレスを感じないような職場環境の整備に取り組んで欲しい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	×	今後、計画をしていこうと考えている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の勤務状況などで給与、賞与に反映している				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	連絡会に加入し、他の事業所との交流に取り組んでいる				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	一部の職員の悩みの相談にのっている	○	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	代表者、管理者は理解している。職員に対しては、研修や会議などで、話し合い、理解を深めるようにしている				虐待防止や身体拘束について学ぶ機会を設け、職員会で報告し職員が共通理解している。管理者は自分がされて嫌だと思うことを利用者に対して行わないよう指導しており、不適切なケアに気付いた際はその都度注意を行い、話し合う機会をつくることで共有を図り職員の資質向上に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	定期的に会議で意見交換をし、話し合っている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	言葉かけや態度などをみている中で、話し合いをしている。申し送りや会議で話し合っている				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気にな事があれば話を聞くようにしている				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員すべてが研修などで学び、具体的な内容について共通の認識を持っている				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束にあたる事を話し合い利用者の行動を制限することがないようにしている				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族と話し合いながら、具体的な対応策を示しながら理解を得るようにしている				

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	全職員が理解出来ていない。研修を受けるようにしたい				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	成年後見制度を利用している方がいる。相談があれば、情報提供していく				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	運営推進会議に包括支援センター、司法書士の方も参加してもらっているので、相談や協力依頼ができる				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	色々な事態に対応出来るようマニュアルを作成している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	救命救急の講習を受けているが、一部の職員は未講習である				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを記録作成し、取り組み、事故防止に務めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者のアセスメント、ケアの状態など申し送りを行い注意している				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情があった場合は、速やかに対応し職員で話し合いをしている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情に対しては、迅速に誠意をもって対応している。また、施設内でも対応策について話し合い、内容によっては市に相談している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して検討し、速やかに回答し、サービスの改善、経過や結果を前向きに話し合い関係作りをしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	係わりのなかで気づきがあれば話をよく聞く			○	利用者の思いや意向は、日常会話から聞き取り推測するよう努めており、家族の要望や意見は、運営推進会議や家族会、面会時の話し合いを通して聞くようにしている。職員は申し送りや職員会で気づきや提案を行い、サービス向上に反映させている。管理者は職員の要望を代表者にも伝えるよう努めているが、一部職員の要望の把握にとどまっているため、職員全員に面接し要望の実現に努めて欲しい。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	苦情箱を設置している	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	日頃より、コミュニケーションをとり、気になる事などないか相談や声掛けをしている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	管理者やリーダーが報告している				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	個別に話を聞いている、今のところ、一部の職員である			△	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	全員参加になっていない				自己評価表はユニット毎に職員が話し合い、ユニットリーダーがまとめて作成している。内容項目を一つひとつチェックしていくことで、現状を確認し、改めて求められている事柄を認識する機会となっている。評価結果については、運営推進会議や家族会で報告しているが、意見交換にまでは至っていないので、家族等から意見を聞く機会を設けるなど、今後の運営に活かせるような取組みが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価する事で取り組みをするようになる				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	前向きに取り組んでいる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	家族には報告していない。運営推進会議には、コピーし説明している	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	確認していない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	マニュアルは作成し、いつでも見られる所に置いている				前回課題として取り上げた地区消防団との協力関係構築の取組みとして、事業所内を見学し避難経路等を確認してもらっている。年2回実施している避難訓練にも参加協力を依頼する計画を立てており、原子力災害についても、地区の避難訓練に参加する予定である。今後は地域住民参加の合同避難訓練等を積極的に開催し、災害時の地域との協力関係を構築し、連携強化に努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回消防署に来てもらい、火災などの想定で行っている。水害の想定も行った				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	水、米、缶詰、乾物など出来るだけ備蓄に務めている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	来年4月の避難訓練で消防団参加の予定である。運営推進会議のメンバーでは行っていない	△	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	参加していない				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	今後は、研修に参加を考えている				運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加が得られるようになり、相互理解が進み相談体制も整い、地域関係者からの相談等にも対応している。地域貢献についての具体的な取組みは今後の課題となっており、認知症カフェの実現を視野に入れ、公民館等関係機関との連携強化を検討することに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	事業所のケアマネの方の相談がある		◎	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	定期的にボランティアの人に、レクやカラオケなどお願いしている				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	受け入れは可能である				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	他の事業所に参加させてもらっている			△	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年11月1日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3873800373
事業所名	グループホーム宇和ひまわり
(ユニット名)	B棟
記入者(管理者)	
氏名	土居 ひとみ
自己評価作成日	平成29年 10月 1日

<p>【事業所理念】</p> <p>笑顔ある生活 笑顔ある生活</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>・地区消防団との協力体制づくりに取り組む・・・消防団長に施設の構造確認をしてもらった。何かあったら協力をおねがいでいる。来年4月の避難訓練に参加してもらう予定である。 利用者の思いや意向を深く考えての対応が不足している。利用者に対して、理念に即した対応が出来るよう努力していく必要がある。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>「笑顔ある生活」を理念に掲げ、利用者のできることや得意なことを活かして、日々笑顔で穏やかに過ごせるよう支援に努めている。利用者の重度化がすすんでいるが、なるべく外出の機会を増やしたいと考え、年間計画を立て季節の花見や外出に出かけている。また、近くにある保育園の園児に定期的に遊戯を披露してもらう等、近隣とのふれあいも楽しんでいる。職員は、家族と様々な機会を通して信頼関係を築けるよう努めており、担当者が送る手紙は心温まる内容である。</p>
---	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	どのように暮らしたいかなど、本人に聞いたり情報を記録し職員に伝えてあっている	○	/	○	職員は、日常の何気ない会話の中から利用者の思いや希望を聞き取っている。重度化に伴い意思表示が困難な利用者が増加しているが、職員は利用者が好むものや、喜ぶこと等を推測して声かけを行い、反応を見ながら思いを汲み取るよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	意思疎通ができない方がどう考えているか理解できていない	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人にかかわりのある方に話を聞いている	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	暮らしの状況用紙に個別に記録し全員が把握できるようにしている	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	本人の思いを大切にしつつも、職員の思いや決めつけで係わっている事がある	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時に本人・家族等から情報を聞き取り記録している	/	/	○	入居時に本人や家族から情報を収集すると共に、病院や利用していた介護事業所からも情報を得ている。「暮らしの情報用紙」には、利用者の長年の習慣や好みを丁寧に聴取し記録されており、入居後に変化があれば追記し、職員間で共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	定期的にあセスメントの行い、現状の把握に努めている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	一人一人の介護記録に状態の変化を記録し、状態を把握出来るようにしている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	会議や申し送りで話し合っている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録に暮らしの様子を記録している。バイタル・排泄・食事量・水分量なども記録している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の行動・話などをふまえ、職員間で意見交換をし、必要としている支援を考えている	/	/	○	認定調査表を参照し、包括的自立支援プログラムを活用しながらアセスメントを行っている。初回は計画作成担当者が介護計画を作成し、それ以降は利用者担当職員が中心となって、職員会で話し合いながら課題の分析をしている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	申し送りや会議で話し合っている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	アセスメントシートを活用している	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人からの思いや要望を聞きとって、ケアプランを作成している	/	/	/	職員は利用者が望む暮らしを実現させるため、利用者ができることに着目し、趣味を生かしたサービス内容を盛り込むよう考慮している。家族にはサービス担当者会議に参加してもらえるよう案内しており、家族の来訪に合わせて話し合いを行い意向を反映するよう努めている。介護計画は、家族面会時に職員のケアへの思いを伝えながら説明し、同意を得ている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の意向やどう暮らしたいかを聞き、その人らしい生活ができるようケアプランの作成をしている	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	寝たきりにならず、みんなと過ごせるようリビングに誘導している	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容となっている。	△	地域の行事に参加しているが、一部の人の人になっている	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアプランを一人一人の介護記録にはさんで、いつでも確認出来るようにしている	/	/	○	介護計画は個人別ファイルに挟み込み、常に計画を意識しながら支援できるよう工夫している。サービス実施状況や観察事項を丁寧に記録し、モニタリングにより職員間で確認し、ケアに活かしている。利用者一人ひとりに対する職員の気づきや工夫等についても、記録することが望まれる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアプランにそって記録し、申し送りに気づきを話し合っている	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に、言語・表情・行動等細かく記入している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	職員の気づきは、記録か口頭で伝えるが、あまりできていない	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	見直しは毎月1回行っている	/	/	○	介護計画は、初回は1か月間実施した後に、以降は3か月後、6か月後に見直し、現状に即した内容になるよう検討している。また状態の変化があった場合は、その都度見直しており、変化がない場合でも毎月ミーティングで利用者の状態を確認している。入院など利用者の暮らしに変化が生じた時は、利用者や家族等を交え見直しを行い、介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回会議でモニタリングシート記入し報告・確認を行っている	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院されたり、心身状態が変化したときは、随時、本人・家族と見直しを行っている	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月1回会議を行い、意見交換をしている	/	/	○	毎月の職員会は、最も多くの職員が参加できる日に開催されており、ケースカンファレンスを行って検討している。日々の申し送り時には、気づきや提案を出して話し合い、情報を共有すると共に統一したケアができるよう努めている。検討した内容は日誌に記載して申し送り、参加できなかった職員には、会議録を回覧し伝達している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	それぞれの担当者が、ケアプランを作成し意見交換している	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	全員参加できるよう希望日を選んで日程を決めている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議の内容を記録し、後で確認できるようにしている。確認後、サインをもらっている	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	口頭で伝えたり、介護日誌の備考欄に記入し、確認者はサインをするようにしている	/	/	○	利用者の状態の変化や治療内容の変更等は、日誌の所定欄に記載して申し送り、確認後は各自サインすることで確実な伝達ができるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	職員の交代時に必ず申し送りをし、利用者の状態を伝えている	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	全員ではないが、出来るだけ本人がしたいと言う事を叶えられるようにしている	/	/	/	職員は、問いかけに対して反応が返ってこない利用者が多くなっていることを残念に思っているが、理念に掲げられているようにできる限り笑顔で過ごしてほしいと考え、思いの実現に努めている。月2回お楽しみメニューの日を設け、利用者が食べたい料理を出し、飲み物も好きなものを選んでもらうよう働きかけている。また、利用者には絵画やパズル、折り鶴など、得意なことに楽しんで取り組んでもらうよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	月2回お楽しみメニューを作り利用者の方の意見を取り入れている	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	なるべく自由に本人の意志にそって、自由に過ごせるよう見守っている	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者の人によって生活のリズムをあわせている	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	本人をの出来る事、得意な事をしえらい、楽しみをもてるようにしている	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や全身の反応をみながら、思いをくみ取るよう務めていた	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	職員によって対応に問題がある場合、個別で注意し会議で話し合うようにしている	○	○	○	職員は親しみの中にも節度を保った関わりができるよう努めており、呼称については姓や名前に「さん」を付けて呼んでいる。排泄や入浴介助、トイレ誘導の際は目立たないような声かけに努めているが、反省点もあるのでさりげない声かけ等を徹底して欲しい。居室に入居する時は、声かけし必ず利用者の了解を得てからにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	言葉かけや態度には注意しているが、できていない時がある	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	なるべく小さな声で声掛けしている。耳の遠い利用者の方には耳元で話している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室する時は、先に声掛けて本人の了解を得ている	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報については、いつもスタッフ同士気をつけている。電話などの問い合わせにも注意している	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	洗濯物干しや洗濯物たたみ、掃除など毎日できる事を職員と一緒にしてもらっている。料理が出来る利用者は手伝いをしてもらっている	/	/	/	職員は、利用者が共に過ごし支え合う関係を大切にしている。利用者同士の関係は良好であるが、もし利用者同士の意見が合わない場合でも、トラブル等に発展しないよう職員がいつも注意を払い見守っている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士で、いたわりあっている	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	職員が注意しながら、良い関係が保てるようにしている	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	今のところトラブルはないが、不穏な空気になれば、職員が声掛けを行い、トラブルになる前に防いでいる	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	聞き取りシートを上手に利用できていない	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	全員の利用者の把握ができていない	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	本人・家族からの情報をシートに記録しているが、周りの知人等も高齢になり疎遠になっている人が多い	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	来訪した人たちが、居室やリビングでゆっくり過ごしてもらえるよう声掛けや飲み物を出している	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	ベランダに出たり散歩に出かけたりするが、毎日難しい	◎	◎	○	事業所は田園の中にあり、利用者は隣接している菜園へ散歩に出かけ野菜の成長を見ることを楽しみにしている。車いす等利用者の状態にかかわらず、リビングの窓からベランダに出て日光浴をするなど、気分転換にも努めている。また毎月1回程度、季節の花見や外食などの外出計画を立てており、遠出の際は福祉車両を使用し全員で外出するなど支援に努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	今のところ施設の職員で外出できているので利用していない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	△	重度の人でもベランダに出てもらい、気持ちよく過ごしてもらえるようにしている	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	個別に対応できていない	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	研修に参加し、会議で報告し、不安や混乱の予防、支援の工夫をしている	/	/	/	DVD体操や指体操、手作業、合唱等、利用者にはできることやできそうなことを日常生活で取り組んでおり、職員は見守りながら、時には手助けを行うこともある。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	利用者個々の身体状態を把握し、一連の動作が自分でできるよう声掛けし、必要なところのみ介助している	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者一人一人できる事できない事を知り必要な手助けや声掛けをしている。その日により体調も違うため、声掛けや関わり方を考えケアを行う	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者それぞれ、その人にとって楽しみごとや役割を考えている	/	/	/	可能な範囲で家事を分担して役割を発揮できる機会を設けている。利用者がどのような状態になっても風船バレー、ボール投げや手遊びなど、何らかのことに楽しんで取り組んでもらうよう努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者個々でして頂くこと、全員ができること、役割を考えている	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	保育園児との交流や夏祭りに参加し楽しんでもらえるようにしている	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	本人が持っている衣類などのバランスを考えている	/	/	/	利用者は家族が持参した衣類などを着用し、食べこぼしや着衣の乱れがあっても、職員がさりげなくきれいに整えている。重度の利用者も毎日着替えをしたり、2か月に1回訪問美容で好みの髪型にするなど、利用者の思いを尊重した支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	入所時は、本人の着慣れた服を用意してもらっている。入所時は、本人と買い物に行き購入する	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	把握している情報をもとに本人と相談し決定している	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に応じた服装を楽しめるよう支援している	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	着衣の乱れ、汚れなどあったら早めに更衣し清潔を保っている	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	訪問美容師に来てもらっている。行きつけの店に行く方もいる	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	洋服など清潔な物を着てもらっている	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者と共に食事を一緒に楽しみ、片づけの出来る人はしてもらっている	/	/	/	管理者が献立を作成し、毎食各ユニットで調理している。買い物や後片付けなど、利用者が楽しめるような支援ができていないので取組みを期待したい。月2回利用者の好みを取り入れたお楽しみメニューの日を設けており、誕生日にも利用者が希望する料理を特別につくり、手作りのおやつで祝っている。菜園で採れた季節の野菜を使うこともある等、食事が楽しめるようにしている。食器は自分の家で使い慣れたものを使用している。利用者一人ひとりの状態に合わせて食事形態を変えたり、苦手な食品を別のものに変えるなど配慮し、食事の時間が待ち遠しく楽しんでもらえるよう支援している。職員も一緒に食卓を囲み、利用者にゆっくりと声をかけ、姿勢や食器の位置を変える等の工夫をしながら、利用者が自分で食べることができるよう支援している。定期的に栄養士からアドバイス等をもらい、利用者の栄養バランスを考えた献立メニューの作成に努めて欲しい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	出来る方は、調理や片づけを一緒に行っている。買い物も一緒に行くようにしている	/	/	△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	感謝の言葉かけをしている	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所時に家族や本人に聞いた内容を把握し、職員間で共有している	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	アレルギーについては注意している。季節の食材を取り入れている	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者の機能にあわせ、柔らかく調理したり、トロミをつけたりしている	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	自分の家で使い慣れた物を使用してもらっている	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者と一緒に食事をし見守りしている。介助の必要な人は、隣に座って声掛け介助している	/	/	/	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	料理の匂いを感じることができる	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	△	水分量、食事を個別に記録している	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	毎食時、おやつ時には、水分の摂取量をチェックしている。水分量が少ない時は、こまめに飲用してもらっている	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	知り合いの栄養士に献立をみてもらっている	/	/	△			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	まな板は、魚、肉、野菜に分けている。毎日、ハイターで消毒している	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	△	口腔ケアについて話し合いをしている	/	/	/	職員は口腔ケアの重要性を認識しており、毎食後口腔ケアを実施している。異常を発見した場合には、協力医に依頼して訪問による歯科治療を受けることができるよう支援している。全員の口腔内チェックはできていないため、今後、歯科医師や歯科衛生士による予防的ケアの取組みについても検討することを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアの時に確認している	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	指導は受けていない。義歯の調整はしてもらっている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	できる事はしてもらっているが、磨き残しは職員が行っている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	食後、歯磨きの声掛けを行い、本人ができるよう見守り介助を行っている	/	/	△	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常がみられた時には、家族に連絡し、状態説明し歯科受診をしてもらっている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	会議で話し合っている	/	/	/	日中と夜間共にトイレで排泄が行えるよう支援しており、リハビリパンツや尿取りパットを使用している利用者が多く、現在おむつを使用している利用者はいない。転倒の危険がある利用者には、夜間は履物に鈴をつけ、職員が動きを察知してすぐに対応できるよう工夫している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食事の内容、水分量の把握をし理解している	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	個別の排泄チェック表をつけ、日常の変化や状態について把握している	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄のパターンを把握し、誘導しトイレでの排泄ができるよう促している	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	個々にあったトイレの声掛け誘導を行っている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	一人一人の排泄パターンを把握し、本人の前でさりげなく声掛けを行っている	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人や家族との話し合い、確認しながらおむつの種類について決めている	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人に合わせて使い分けている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食べ物や飲み物を工夫している	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	利用者の体調に合わせて入浴を行っている。拒否のある人は、機嫌のよい時に誘導するようにしている	◎	/	○	一般家庭浴槽に2、3日に1回入浴ができるよう支援しており、季節が感じられるようゆず湯をすることも。入浴が苦手な利用者もいるが、無理強いないことなく入浴できるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	一人づつ気持ち良く入浴してもらえるよう心がけている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人の出来るところはしてもらえようにする	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	入浴拒否のある人は、毎日声掛けを行い、今までの習慣など考え、時間帯など考え工夫している	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前には、血圧と体温を計り状態の把握をし、入浴後は水分補給を行っている	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	本人の状態を把握し記録している	/	/	/	不眠時には、利用者が眠くなるまで話を聞き寄り添うなど、安易に睡眠導入剤に頼らないよう支援している。体調維持等のためやむを得ないと医師が判断した場合のみ、薬剤を処方するようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	テレビを見てもらったり話をしたりして過ごしてもらっている。眠くなるまで職員と過ごす	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中はなるべく活動していただいている。それでも、眠れない場合は、医師に相談している	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の希望や状態に合わせて休息してもらっている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	誘導している	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙が書ける利用者は誘導し書いてもらい、家族に送っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	いつも使えるように配慮している	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人にはきちんと伝え見せているが、理解できていない	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族に理解、協力してもらっている。家族の方からも電話してもらっている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	職員は理解できている。一部の利用者はお金を所持している	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	一緒に買い物に行く。欲しい物を購入してもらっている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	行きつけはないが、どこも親切に対応してもらっている	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族の了解を得て、希望の利用者はお金を使えるようにしている	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族と相談してホームで預かっている方や所持している方もいる	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	管理方法、預かり金の使用目的を話して、預かり帳のコピー、レシートを家族に郵送している。面会時に確認してもらい、サインしてもらっている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	来訪時、家族と共に食事をしてもらう事もある	◎	/	○	家族が高齢であったり、遠方に住んでいたりして病院に付き添うことができない場合は、職員が付き添って受診しており、福祉車両で送迎する支援も行っている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	花壇にはいつも花があり、玄関なども出入りしやすい雰囲気になっている	◎	◎	◎	玄関を入ると正面に理念が掲げられており、観賞用植物が置かれたエントランスの両側が各ユニットの入口になっている。入口には長椅子を置き、履物の着脱がしやすいように工夫している。壁には利用者の作品が飾られ清潔な印象である。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	一般家庭と同じようにし、くつろげるような環境作りをしている	○	◎	○	オープンキッチンのあるリビングは2面が掃き出し窓のため明るく、調理の音やにおいを感じられる空間になっている。畳コーナーや椅子席、ソファ席が設けられ、利用者は思い思いにくつろいでいる。大きな窓からは道行く人を眺めることができ、所々に生花を飾ることで季節を感じられるよう配慮している。不快を感じさせないよう掃除をしているが、不十分な点もあるので、清潔が感じられるような清掃等に努めて欲しい。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	△	音・光・臭いに気をつけて掃除をしているが、細かいところなど行き届かない事がある	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を活けたり、台所とホールがオープンになっているので、食事の匂いや音が聞こえたりする。玄関や食卓には花を利用者と活けている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ホールにはソファを置きみんなで過ごせるようにしている	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	トイレ、浴室は共有空間から直接見えないよう工夫している	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅を使っている物など馴染みの物を持ってきてもらっている	○	/	○	居室には家族写真や誕生祝いの色紙、家族手作りのぬいぐるみが飾られ、個性的な部屋になっている。また、1日1部屋を大掃除の日と定めて掃除し、清潔に過ごせるよう努めている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	玄関にイスを置き、靴の着脱がしやすいようにしている。廊下、トイレに手すりをつけている	/	/	○	居室入口の飾り付けや、「トイレ」と大きく表示するなど、利用者が分かりやすいよう配慮している。共用スペースに余分な物はなく、車いすでの移動が容易にできるよう環境を整えている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室はすべて引き戸にし、トイレの入り口にはわかるように大きな字で書いている	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌、アルバムなど、取りやすい場所に置いている	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	日中はカギをかけないで自由に入出入り出来るようにしている。外に出たい利用者がある場合は、職員が一緒について行くようにしている	◎	◎	◎	職員は施錠することの弊害について学んで理解しており、日中は玄関及びユニット入口は施錠されておらず、自由に入出入りすることができる。職員は声をかけ合って見守り、安全に配慮している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	日中鍵をかけていない事は、家族の理解を得ている	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関には、戸が開くと音がるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居前に、事前調査表を確認し共有している	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタルチェック、食事摂取、排泄パターン、体重の状態、体調変化を個別に記録している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	かかりつけの病院、医師に相談出来るようにしている	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時に家族の希望を聞き受診出来るようにしている	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	かかりつけの病院が遠方の場合、話し合っている	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院はホームの職員が行っているが、家族が行かれる利用者もあり、受診結果で変更などあれば報告している	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際は介護記録をみて医師や看護師に情報提供している	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中は洗濯物を取りに行ったり、必要な物を持って行ったりし、様子を伺い、医師や看護師に経過など聞いている	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	毎月受診しているので、関係が保たれている	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	気づいたことや心配な事等、来所時や電話などで報告、相談している。毎月1回会議を行い、現在の状態や気づいた事等話し合っている	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	×	日中は対応可能になっている	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	△	変化、異変がみられた場合、対応の相談をしている	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	薬の詳細についての理解は十分とはいえない	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	手渡し、服薬の確認をしている	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	心身の変化、変調がみられたら医師に相談する	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	処方が変わったら記録し、申し送りなどで伝え確認している。変化や気になる事があれば、医師に相談している。	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態変化があれば、家族、本人の意向をきき、支援内容を話し合っている	/	/	/	入居時に本人や家族に事業所として対応できることを説明し、理解を得ている。現在看取り支援は行っていないが、重度化した場合は家族や医師、職員が話し合い、病院の医療ソーシャルワーカーや関係機関と密接に連携を取りながら、適正な治療やケアが受けられるよう支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	本人、家族、医療関係者との話し合いをして方針を共有している	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	×	終末期の対応は出来ていない	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約時に事業所の方針について、説明し理解を得るようにしている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	×	終末期の支援は行っていない	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の思いを聞くようにしている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	順番に研修参加し、会議で報告するようにしている	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	マニュアルを作成しているが、対応力を身につける訓練は行っていない	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	テレビなどの情報で職員同士話し合っている	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	市からの情報を得て、予防対策をしている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関にマスク、消毒液を常備している。こまめに手洗いをしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	来訪時や手紙で本人の様子を伝え、本人と家族と一緒に考えている				様々な機会を設けて家族と意思疎通を図り、信頼関係を構築できるよう努めている。年2回開催する家族会には多くの家族が参加しており、率直な意見を聞くことで改善に結び付けている。面会時には家族が相談しやすいよう気軽に声をかけ、利用者の様子を伝えると共に、家族の要望も聞くようにしているほか、職員の異動等についても伝えるようにしている。また毎月の事業所便りを送付する際は、担当職員が利用者の日常を丁寧に綴った手書きの手紙を添えて送っている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	家族の来訪時にリビングや居室で本人とゆっくりしてもらうよう一緒におやつを食べてもらうようにしている				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	年2回家族会をして交流を深めている	○		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月、本人の様子など手紙を書いている。ホームだよりを出して。電話をかけるときもある	○		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	言いやすい雰囲気作りを心がけている				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会に来られた時に本人と家族との間に職員が入り、和やかに話ができるようにしている				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	来訪時やホームだよりで伝えている	○		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	年2回家族会を行い、家族間の交流が出来ているが、欠席者があり、参加する家族は限られている				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	起こり得るリスクについて、家族に説明し対応策を話し合っている				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には、声をかけ状態の説明をし意見が言いやすいようにしている			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時に説明し理解、納得してもらうようにしている				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去については、家族と話し合い同意を得るようにしている				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	利用料金の変更があれば、文書で連絡し同意を得ている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	開設時、事業所の説明会を行った	/	○	/	近くにある保育園の園児が、散歩の途中で事業所に立ち寄ったことがきっかけで始まった園児との交流は、2か月に1回定期的に行われている。地域の秋祭りには神輿や五鹿踊り、亥の子が訪れ、楽しませてもらっている。毎年末の餅つきでは近所に餅を配るなど、地域との交流に努めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地方祭、地域事業に参加している	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	散歩していると、地域の人が声をかけてもらう	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	今後、カフェなどをして、近所の人と交流を持ちたい	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	近所の人と挨拶をしている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	町内の方がボランティアに来てもらっている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	希望に沿った外出をしているが、一部の人になっている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の保育園児が定期的に訪問してもらっている。駐在所の人とも年1回交流をしている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地域支援包括支援センターの人の参加を増えた	×	/	○	運営推進会議は利用者や家族のほか、市議会議員や駐在所警察官、司法書士等の参加があり、講話をしてもらったり情報交換を行うなど、協力関係を築いている。会議では外部評価の取組み状況等についても報告し、意見等ももらっている。意見交換の中で、高齢化する地域とのつながりをより深めるために認知症カフェを開催してはどうかという提案があり、実現に向けて検討している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	自己評価、外部評価など報告している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	参加者全員に意見を聞いている。意見、提案を今後の運営に生かすようにしている	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	出席しやすい日を設定している	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関の所に置き、誰でも見れるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	会議の時に、理念に添ったケアが出来るよう全員に認識出来るようにしている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	玄関先の見える所に掲示しているが、伝えていない	×	◎	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	個々にあった研修に参加出来るようにしている	/	/	/	新入職員の指導は担当職員が相談にのりながら行い、資格取得も奨励しており、支援体制を整えている。さらに代表者は職員全員の相談に乗り、職員がストレスを感じないような職場環境の整備に取り組んで欲しい。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	×	今後、計画をしていこうと考えている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	個々の勤務状況などで給与、賞与に反映している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	連絡会に加入し、他の事業所との交流に取り組んでいる	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	一部の職員の悩みの相談にのっている	○	○	△	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	代表者、管理者は理解している。職員に対しては、研修や会議などで、話し合い、理解を深めるようにしている	/	/	/	虐待防止や身体拘束について学ぶ機会を設け、職員会で報告し職員が共通理解している。管理者は自分がされて嫌だと思うことを利用者に対して行わないよう指導しており、不適切なケアに気付いた際はその都度注意を行い、話し合う機会をつくることで共有を図り職員の資質向上に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	定期的に会議で意見交換をし、話し合っている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	言葉かけや態度などをみている中で、話し合いをしている。申し送りや会議で話し合っている	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	気にな事があれば話を聞くようにしている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員すべてが研修などで学び、具体的な内容について共通の認識を持っている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束にあたる事を話し合い利用者の行動を制限することがないようにしている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族と話し合いながら、具体的な対応策を示しながら理解を得るようにしている	/	/	/	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	全職員が理解出来ていない。研修を受けるようにしたい				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	成年後見制度を利用している方がいる。相談があれば、情報提供していく				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	運営推進会議に包括支援センター、司法書士の方も参加してもらっているので、相談や協力依頼ができる				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	色々な事態に対応出来るようマニュアルを作成している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	救命救急の講習を受けているが、一部の職員は未講習である				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットを記録作成し、取り組み、事故防止に務めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者のアセスメント、ケアの状態など申し送りを行い注意している				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情があった場合は、速やかに対応し職員で話し合いをしている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情に対しては、迅速に誠意をもって対応している。また、施設内でも対応策について話し合い、内容によっては市に相談している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して検討し、速やかに回答し、サービスの改善、経過や結果を前向きに話し合い関係作りをしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	係わりのなかで気づきがあれば話をよく聞く			○	利用者の思いや意向は、日常会話から聞き取り推測するよう努めており、家族の要望や意見は、運営推進会議や家族会、面会時の話し合いを通して聞くようにしている。職員は申し送りや職員会で気づきや提案を行い、サービス向上に反映させている。管理者は職員の要望を代表者にも伝えるよう努めているが、一部職員の要望の把握にとどまっているため、職員全員に面接し要望の実現に努めて欲しい。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	苦情箱を設置している	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	日頃より、コミュニケーションをとり、気になる事などないか相談や声掛けをしている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	管理者やリーダーが報告している				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	個別に話を聞いている、今のところ、一部の職員である			△	

愛媛県グループホーム宇和ひまわり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	全員参加になっていない				自己評価表はユニット毎に職員が話し合い、ユニットリーダーがまとめて作成している。内容項目を一つひとつチェックしていくことで、現状を確認し、改めて求められている事柄を認識する機会となっている。評価結果については、運営推進会議や家族会で報告しているが、意見交換にまでは至っていないので、家族等から意見を聞く機会を設けるなど、今後の運営に活かせるような取組みが望まれる。	
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価する事で取り組みをするようになる					
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	前向きに取り組んでいる					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	家族には報告していない。運営推進会議には、コピーし説明している	×	○	△		
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	確認していない					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	マニュアルは作成し、いつでも見られる所に置いている				前回課題として取り上げた地区消防団との協力関係構築の取組みとして、事業所内を見学し避難経路等を確認してもらっている。年2回実施している避難訓練にも参加協力を依頼する計画を立てており、原子力災害についても、地区の避難訓練に参加する予定である。今後は地域住民参加の合同避難訓練等を積極的に開催し、災害時の地域との協力関係を構築し、連携強化に努めて欲しい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回消防署に来てもらい、火災などの想定で行っている。水害の想定も行った					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	水、米、缶詰、乾物など出来るだけ備蓄に務めている					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	来年4月の避難訓練で消防団参加の予定である。運営推進会議のメンバーでは行っていない		△	◎		△
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	参加していない					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	今後は、研修に参加を考えている				運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加が得られるようになり、相互理解が進み相談体制も整い、地域関係者からの相談等にも対応している。地域貢献についての具体的な取組みは今後の課題となっており、認知症カフェの実現を視野に入れ、公民館等関係機関との連携強化を検討することに期待したい。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	事業所のケアマネの方の相談がある		◎	○		
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	定期的にボランティアの人に、レクやカラオケなどお願いしている					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	受け入れは可能である					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	他の事業所に参加させてもらっている			△		